



NEWS LETTER

職場の労働環境を変えたいとおもうなら「持ち上げない看護・かかえあげない介護」を取り入れませんか？

▶ <http://www.nolift.jp/>

介護・医療の現場を通して考える 課題とこれから 日豪医療介護交流会 in KOBE

共催：神戸市、日本ノーリフト協会

後援：オーストラリア貿易促進庁、公益社団法人 日本看護協会、神戸市介護サービス協会

レポート 報告



講演テーマ

■ 2013年1月11日(金)

介護、福祉、医療、ロボット関連を中心とした企業の方々向けのセミナー

介護・医療の現場に導入が進むロボット技術
～どのような価値が生み出され、どのような課題があるのか～

■ 2013年1月12日(土)

交流会、懇親会

ノーリフトが変える医療と介護
～チャレンジからみえる課題と未来へつながるケア～

■ 2013年1月13日(日)

ワークショップ

ノーリフトを実践する～変えられないを変えていく～

開催日・場所

開催日：2013年1月11日(金)、12日(土)、1月13日(日)

会場：スペースアルファ三宮
(神戸市中央区三宮町1-9-1三宮センタープラザ東館6階)

ご協力ありがとうございました!

2013年1月11～13日の3日間神戸(スペースα三宮)でオーストラリア認定人間工学士、人間工学学会永久会員資格保持者、マーク・ヘネシー氏(オーストラリア、メルボルン在住)を講師に迎え、オーストラリアでのノーリフトの変化と施設や病院における人間工学的な視点での設計アドバイスやノーリフトを実施するうえでの必要なリスクアセスメントの視点などをご講演をいただきました。最終日には、限定40名でワークショップを開催し、実際に設計図を用いてどのような環境を作ればいいのか意見交換を実施することができました。

【講演者のご紹介】



Mark Hennessy 氏

Hennessy Service Pty Ltd 理事
公衆衛生コンサルタント

人間工学の視点から、地域安全、子供の安全衛生、病院&施設の労働安全衛生に基づいたデザイン、安全な家屋のデザイン、スポーツにおける安全、道路セイフティを含む公衆衛生および安全衛生分野での実践と講師活動に30年間たずさわる。



和田 忠志 氏

いらはら診療所 在宅医療部長

東京医科歯科大学卒
松戸市に「あおぞら診療所」開設、
松戸市高齢者虐待防止ネットワーク会長

2013年1月11日(金)

介護・医療の現場に導入が進むロボット技術

～どのような価値が生み出され、どのような課題があるのか～

予想をはるかに上回る参加者(150名)とたくさんのマスコミの皆様が集まって頂き取材もあり関心の大きさを実感しました。この日はマーク氏のノーリフトと病院や施設の環境の変化に始まり、松下記念病院でのロボット導入に関する話がありました。



また、産業総合技術研究所の西田氏と適寿リハビリテーションサポートマップ作製について説明がありました。



2013年1月12日(土)

ノーリフトが変える医療と介護

～チャレンジからみえる課題と未来へつながるケア～

マーク氏によるオーストラリアでの30年以上にわたる施設や病院の人間工学的視点をもった設計の必要性とノーリフト導入時のコンサルティング体験談を伺いました。また、オーストラリアの肥満人口急増による介護現場の現状をお話いただきました。日本でノーリフト導入施設として、リフトを使用することによってご利用者の下肢の硬縮が軽減され、リフトからスタンディングマシンへと介助方法を検討しながら自立度アップをサポートできた事例報告がありました。しかし、ノーリフトを実現させるためには、様々な問題点や意識改革が必要であり、今後も継続する為にチャレンジしていくという話がありました。



和田先生からは在宅医療におけるノーリフトの重要性、そして、リフトなどを導入するには介護する方が自ら体験し、知識として知ることが必要であるとお話いただきました。今まで施設や病院を担当された新聞記者の皆様からは、「腰痛を“職業病”だと思い我慢されている介護や看護職が多いことに驚いた」という意見があり、その上でマスコミとしては、「現場のみなさんからの声がなければ記事にもならないですが、問題が表面化してくれば、腰痛予防対策や課題改善の記事化でお役に立てると思います」という心強いお言葉もありました。参加者と発表者との活発な意見交換は、懇親会でも繰り広げられていました。



あけぼのの家



“あけぼのの家”は、スマイルシート®の縫製&梱包をサポートくださっている兵庫県立総合リハビリテーションセンター 障がい者作業所です。交流会当日は、シートの販売サポートやクッキーの販売を行ってくださり会場の雰囲気をもたせてくれました。

和菓子の“和みの家”



和菓子の“和みの家”は、神戸の湊川市場で和菓子を販売している障がい者作業所です。1個60円と手ごろな価格で、当日は講師のお土産づくりにもご協力頂きました。市場に行くと店頭販売もしています。ぜひ神戸にお越しの際はお立ち寄りください。特に桜もちがお勧めのお店です。

2013年1月13日(日)

ノーリフトを実践する

～変えられないを変えていく～

40名の参加者が8グループに分かれて、4種類の設計図を見ながら意見交換(間違い探し)を行いました。同じ図面を見ているグループごとに気づきが違う点もあれば、どのグループも「開き扉を引き戸にすべきだ」という場面もありました。マーク氏からは、引き戸も開き戸もメリット・デメリットがあるので一概に決められないが、やはりどのような対象者がその部屋に入るのかを設計の段階から想像し職域をこえてはなすことが大切だとアドバイスをもらいました。

また、オーストラリア方式!?なのか、これが正しいという答えはなく、グループでの意見交換に意味があり、ワークショップ最終には、グループ内で実際の役職とちがった役を各自がもち、経理管理者・看護師・マネージャー・設計士などそれぞれの立場から意見を交換するロールプレイもし、とても盛り上がりました。



展示&開催協力企業

- ・ アイソネックス株式会社
- ・ アビリティーズ・ケアネット株式会社
- ・ 株式会社アマノ
- ・ 株式会社ウェルパートナーズ
- ・ 株式会社タイカ
- ・ シーホネンス株式会社
- ・ 積水ホームテクノ株式会社
- ・ パシフィックサプライ株式会社
- ・ パラマウンドベッド株式会社
- ・ マッスル株式会社
- ・ 明電興産株式会社

おわりに…

「変えられないを変えていきたい。」 日本ノーリフト協会代表 保田 淳子

あっという間の3日間でしたが、充実した交流会を開催することができましたことを心から感謝申し上げます。この3日間だけでなく、1月9日より兵庫県立総合リハビリテーションセンターや適寿リハビリテーション病院へ見学など沢山の方々に交流会開催をサポートいただきました。特に12日の交流会に参加した人からは、熱心な質疑応答と意見交換がみられ、現場での腰痛予防対策の必要性とノーリフトをもっと普及する必要性を改めて感じた1日でした。

今年は、この交流会を機に神戸や全国でノーリフトのセミナーを開催していきます。介護だけでなく、看護からもノーリフトが発信できるように力を入れていきたいと思っています。看護や介護の数(人数)を持ってすれば、政治をも簡単に動く!!といったオーストラリアの看護師達の言葉を胸に…「変えられないを変えていきたい」と思います。今後とも皆様のご協力よろしく願いいたします。

<支出>

項目	詳細	金額
会場費	1/11~13会議室使用料備品等	858,050
会議費	打ち合わせ用	43,416
会議費	1/12&13お弁当80個	124,338
印刷費	冊子コピー	87,000
印刷費	チラシ作成	30,000
交通費	講師4名、発表者4名	258,320
宿泊費	講師3名	142,500
懇親会	40名分×5000円	200,000
会議費	お茶60本水10本	8,800
通信料	切手など	41,300
文具費		13,964
人件費	講師謝金 合計10名 (AUS1名含) →通訳(8万円) 講演&発表(3万円/1万円)・スタッフ12名(5000円13日研修日へ充当)	410,000
交通費	飛行機(手数料など諸経費込み)	192,400

※消費税・源泉徴収税は除く

2,410,088

<収入>

項目	詳細	金額
助成	神戸市事業の共同受託	546,440
参加費	懇親会30名×5000円	150,000
展示	展示 賛助80,000×10社	800,000
展示	展示 一般120000×1社	120,000
参加費	1月12日22名参加費用	110,000
	招待参加者56名 講師8名	0
参加費	1月13日38名参加費	202,000
助成	日本ノーリフト協会会場費など負担	481,648

※消費税・源泉徴収税は除く

2,410,088